

アイスクリーム白書2001

(社)日本アイスクリーム協会

シニア層におけるアイスクリーム購入の意識と実態

アイスクリーム白書2001

●トピックス調査「シニア市場編」●

アイスクリームはシニア層の健康維持に効果的

歳をとると骨のカルシウムが減ってきます。これを予防するには、吸収されやすいカルシウムを豊富に含んでいる、牛乳または乳製品を毎日必ず摂ることが大切です。特にシニアになると食事が偏りがちになるものです。そこで、シニアの栄養補助食品としておすすめしたいのがアイスクリームです。カルシウムの他にもたんぱく質やビタミンなどもバランスよく摂取できるアイスクリームは、シニアの健康維持に最適な食品です。

INDEX

◆調査設計

◆調査結果解説

1. [アイスクリームの摂食頻度](#)
2. [アイスクリーム意識「健康と栄養面の認識」](#)
3. [アイスクリーム意識「好感度」](#)
4. [好きなアイスクリームタイプ](#)
5. [間食・食後のデザート摂食状況と人気ランキング](#)

アイスクリーム白書2001

(社)日本アイスクリーム協会



調査設計

社団法人日本アイスクリーム協会では、1997年より、幅広い生活者を対象としてアイスクリームに関する意識調査(ベーシック調査)を実施し、調査結果を「アイスクリーム白書」としてまとめて発表してまいりました。今年、特にシニア層におけるアイスクリーム購入の意識と実態をテーマとして設定し、深掘りした調査を実施。この結果を「アイスクリーム白書2001」トピックス調査・シニア市場編としてまとめ、発表させていただきます。

1.調査テーマ: この調査は、シニア層におけるアイスクリームの購入意識や実態を解明することを主な目的としました。

2.調査方法: **調査地区**
東京・日比谷(銀座)・新宿・池袋(巣鴨)・上野(浅草)・渋谷の5拠点

調査対象者
50歳～69歳の一般男女で、調査時点で最近1年間に市販のアイスクリームを摂食した人

有効回収票数
男性・女性 各200票 計400票

調査方法
街頭面接調査

3.調査実施期間: 2001年4月12日(木)～4月15日(日)

4.調査対象者特性:

対象者特性	合計	男性	女性
合計	400	200	200
50～54歳	100	50	50
55～59歳	100	50	50
60～64歳	100	50	50
65～69歳	100	50	50

調査結果の解説

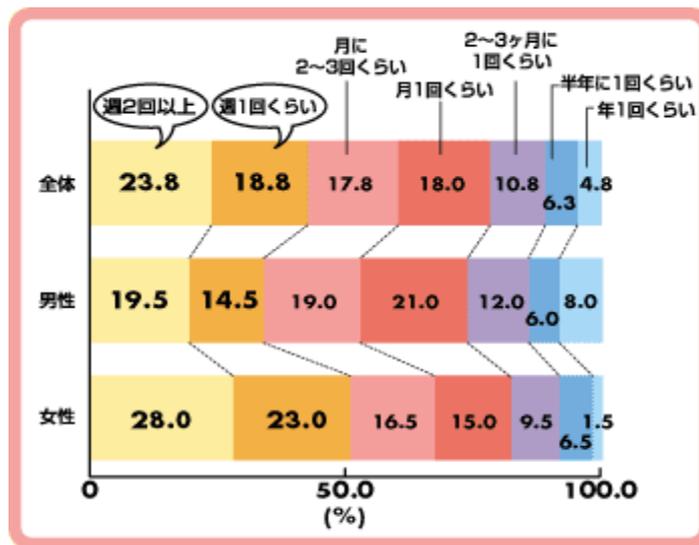
1. アイスクリームの摂食頻度

**シニア層の4割以上が「週1回以上」アイスクリームを摂食
最も摂食頻度が高いのは、男女ともに最高年層の「65～69歳」**

シニア層のアイスクリーム摂食頻度は、「週1回以上」食べている人が最も多く、2人に1人が「週1回以上(51%)」摂食しています。

これを年齢別で見ると、男女ともに最高年層の「66～69歳」の摂食頻度が、最も高い結果となりました。男性65～69歳においては、4人に1人、女性65～69歳では、2.5人に1人が「週2回以上」摂食と、非常に高頻度でアイスクリームを食べていることがわかりました。

■アイスクリーム摂食頻度



■アイスクリームをどのくらいの頻度で召し上がりますか？

(%)	週2回以上	週1回位	月に2~3回位	月に1回位	2~3ヶ月に1回位	半年に1回位	年に1回位
全体	23.8	18.8	17.8	18.0	10.8	6.3	4.8
男性小計	19.5	14.5	19.0	21.0	12.0	6.0	8.0
50～54歳	22.0	18.0	18.0	18.0	12.0	6.0	6.0
55～59歳	16.0	12.0	24.0	12.0	14.0	12.0	10.0
60～64歳	14.0	6.0	16.0	36.0	16.0	2.0	10.0
65～69歳	26.0	22.0	18.0	18.0	6.0	4.0	6.0
女性小計	28.0	23.0	16.5	15.0	9.5	6.5	1.5
50～54歳	18.0	36.0	20.0	12.0	12.0	2.0	0.0
55～59歳	26.0	32.0	14.0	16.0	6.0	6.0	0.0
60～64歳	26.0	16.0	22.0	16.0	8.0	8.0	4.0
65～69歳	42.0	8.0	10.0	16.0	12.0	10.0	2.0

アイスクリームは、シニアの健康維持や骨折予防に効果的！

順天堂大学名誉教授 医学博士 石河利寛先生

歳をとると骨のカルシウムが減ってきます。特に女性は男性と比べて骨が細いうえ、50歳頃から骨のカルシウムが急速に減り、ちょっと転んだだけで骨折しやすくなります。

これを予防するには、吸収されやすいカルシウムを豊富に含んでいる牛乳または乳製品を、毎日必ず摂ることが大切です。カルシウムは、小魚や緑黄色野菜などにも含まれていますが、身体への吸収という面では、牛乳や乳製品の方が優れています。牛乳の成分「乳糖」がカルシウムの吸収を助けるからです。そういう面から考えても、牛乳や乳製品から作るアイスクリームは、シニアのカルシウム補給に適した食品といえます。

2. アイスcream意識「健康と栄養面の認識」

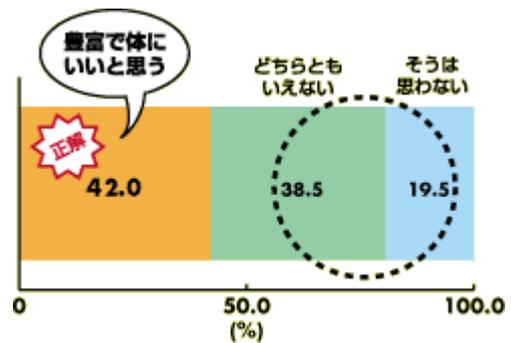
アイスcreamに関する「健康意識」について聞いてみました。結果は、各項目とも肯定的=正確に認識している割合が高いものの、「どちらともいえない」という比率もそれぞれの項目で少なくなく、「抵抗感はなくとも、健康に良いのかどうか本当のところはわからない?」といった様子が伺えました。

Q 乳製品はカルシウムが豊富で体にいいの?

A 1日1個のアイスcreamでカルシウム不足を解消シニアの栄養補助食品としてもおすすめ

厚生労働省発表の「平成11年度国民栄養調査」によると、日本人のカルシウムの摂取量は相変わらず不足しています。アイスcreamはカルシウムを豊富に含んでいます。乳脂肪8%のアイスcream 130ml1個で、1日に必要なカルシウムの15%を補給できます。カルシウムは意識して摂らないと不足しがちな栄養素です。1日1個のアイスcreamで上手においしくカルシウム補給をしてください。老若男女特にお年寄りの骨粗鬆症の予防にも最適な食品です。

■カルシウム豊富で体にいいという栄養面の認識

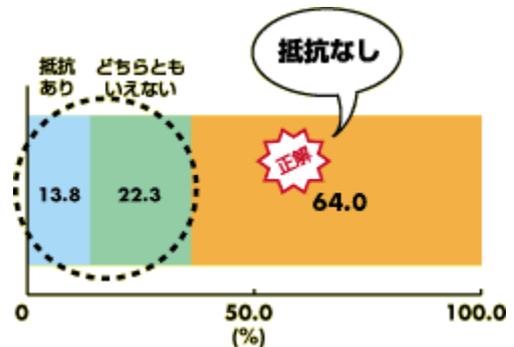


Q 高カロリーで太りやすいのでは?

A アイスの脂肪は、エネルギー源になる方の脂肪分です ■高カロリーに対する認識・抵抗感

アイスcreamは甘くて乳脂肪分を多く含んでいるため、太りやすいと思われがちです。ところが脂肪分にはエネルギー源になるものと、身体に蓄えられるものがあり、アイスcreamの乳脂肪分はエネルギー源になる方の脂肪分です。また、冷たいアイスcreamを食べると、体は体温を戻そうと熱生産を高めます。そのためエネルギー消費が大きくなり太りにくくなります。

[筑波大学 運動・栄養生化学 鈴木正成教授]



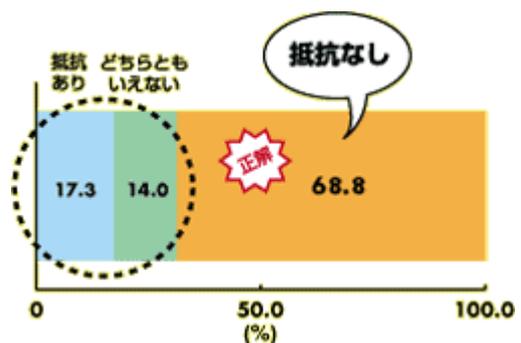
Q 体が冷えてしまうのでは?

A 口の中で溶けて、体内では体温に近い温度になっています ■体が冷えてしまうことについての認識・抵抗感

アイスcreamは、冷たいから消化が悪いと思われがちですが、それは誤解で、口の中で溶けて体内では体温に近い温度になっています。

[栄養管理士 金子基子先生]

また、口の中で溶かして食べるため胃腸を刺激することもなく、おなかをこわしやすいこともありません。

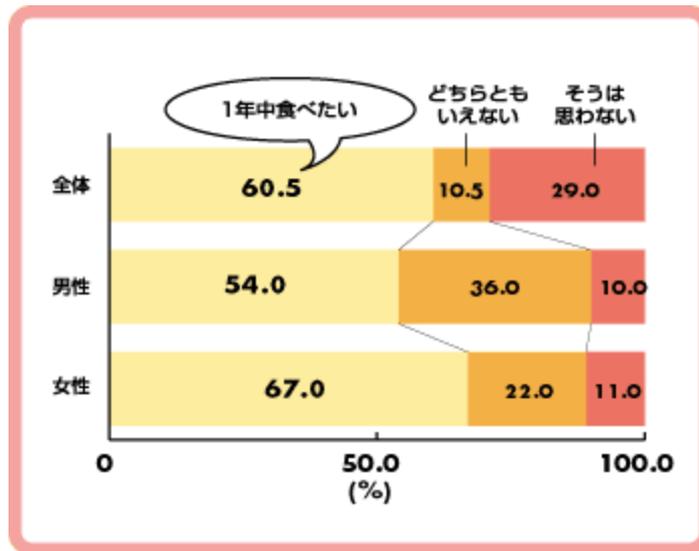


アイスクリームファン度が最も高いのは「女性50代」

[摂食意識] 女性50代の75%=4人に3人が「通年型」で摂食

季節によるアイスクリームの摂食意向の変化を聞いたところ、6割が「季節に関係なく1年中食べたい」と答えています。性差では、男性54%に対して女性67%と高く、なかでも**女性50代**の支持率は圧倒的で、**8割近く**が「1年中」という答え。年間を通して好まれている様子が伺えました。

■アイスへの摂食意向
「季節に関係なく1年中食べたい」とおもいますか？



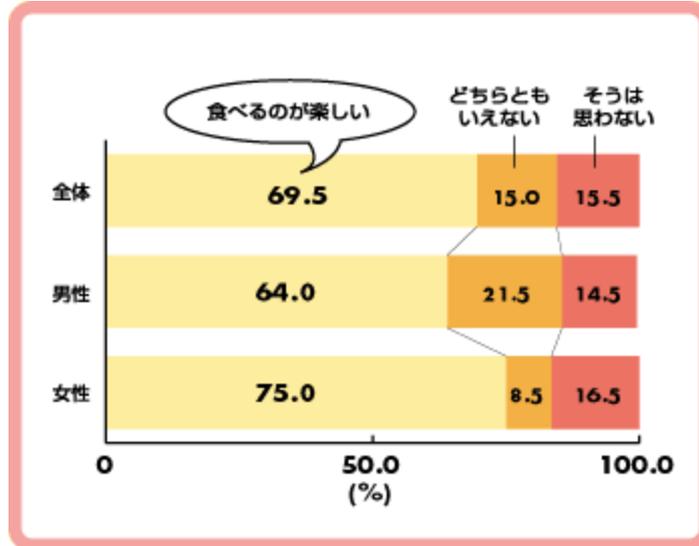
%	1年中食べたい	どちらともいえない	そうは思わない
全体	60.5	10.5	29.0
[男性小計]	54.0	10.0	36.0
男性50～54歳	68.0	8.0	26.0
男性55～59歳	52.0	14.0	34.0
男性60～64歳	52.0	12.0	36.0
男性65～69歳	46.0	6.0	48.0
[女性小計]	67.0	11.0	22.0
女性50～54歳	76.0	12.0	12.0
女性55～59歳	76.0	6.0	18.0
女性60～64歳	52.0	16.0	32.0
女性65～69歳	64.0	10.0	26.0

[摂食意識] 女性50代の80%＝5人に4人が「アイスを食べるのが楽しい」と好印象

アイスクリームは「種類や味が豊富で食べるのが楽しい」という**肯定派は7割近く**に上り、非常に好意的な様子が伺えました。性差では女性が圧倒し、男性64%に対して女性75%が肯定派。
なかでも、最も支持率が高いのは、摂食意向と同様に**女性50代層で80%＝5人に4人**となっています。

■アイスへの摂食意向

「種類や味が豊富で食べるのが楽しい」とおもいますか？



%	食べるのが楽しい	どちらともいえない	そうは思わない
全体	69.5	15.0	15.5
[男性小計]	64.0	21.5	14.5
男性50～54歳	74.0	12.0	14.0
男性55～59歳	56.0	34.0	10.0
男性60～64歳	62.0	24.0	14.0
男性65～69歳	64.0	16.0	20.0
[女性小計]	75.0	8.5	16.5
女性50～54歳	82.0	4.0	14.0
女性55～59歳	78.0	6.0	16.0
女性60～64歳	70.0	10.0	20.0
女性65～69歳	70.0	14.0	16.0

調査結果の解説

4. 好きなアイスクリームタイプ

100円程度のバニラカップが定番。「あずき」「抹茶」など和風フレーバーも大人気

[人気タイプ] 定番の「100円程度のクリーム系カップアイス」が第1位

よく食べるアイスクリームの商品タイプでは、「100円程度のクリーム系カップ(45.0%)」が男女ともに最も支持率が高く、第1位となっています。

タイプ別では、手軽で食べやすいモナカの支持率は「男性層=35.5%>女性層=28.5%」、に対してこだわりのスーパープレミアムは「男性層=27.5%>女性層=31.5%」という結果が目立ちます。

■人気タイプ

順位	全体	タイプ	男性	女性
1位	45.0%	100円程度のクリーム系カップ	43.5%	46.5%
2位	32.0%	モナカ	28.0%	> 28.5%
3位	30.3%	マルチパック	26.0%	< 34.5%
4位	27.5%	スーパープレミアムカップ	23.5%	< 31.5%
5位	20.5%	バー(棒付き)タイプ	21.5%	19.5%
6位	17.8%	100円程度の氷菓系カップ	18.0%	17.5%
7位	15.5%	コーン・ソフトタイプ	18.0%	12.0%
8位	4.3%	一口タイプ	4.0%	4.5%

男性の支持が高い
女性の支持が高い

[人気フレーバー] 「バニラ」が圧倒的、「あずき」「抹茶」など和風も大人気

よく食べるアイスクリームのフレーバーでは、「バニラ(78.0%)」が、他のフレーバーを大きく引き離して第1位を獲得。

また、アイスクリームフレーバーの代表、不動の人気フレーバーと言えばバニラとチョコレートですが、今回はチョコレートを押さえて「2位 あずき」「3位 抹茶」が上位にランクイン。シニア層における和風フレーバーの人気の高さが特徴的でした。

■人気フレーバー

順位	タイプ	全体
1位	バニラ	76.0%
2位	あずき	32.8%
3位	抹茶	32.0%
4位	チョコレート	23.3%
5位	ストロベリー	16.8%
6位	ラムレーズン	11.3%

[人気フレーバーランキング 参考]

	99年 (%)		98年 (%)		97年 (%)	
1位	バニラ	68.6	バニラ	67.7	バニラ	68.6
2位	チョコレート	37.8	チョコレート	42.6	チョコレート	33.3
3位	抹茶	33.8	抹茶	31.6	ストロベリー	26.3
1位	ストロベリー	32.2	ストロベリー	28.2	抹茶	21.1
5位	あずき	23.1	あずき	18.9	ヨーグルト	15.9
5位	メロン	18.6	コーヒー	16.7	あずき	12.7

小学生から69歳までを対象として実施した人気フレーバーに関する調査結果
 なお2000年は同項目での調査を実施していないためデータなし

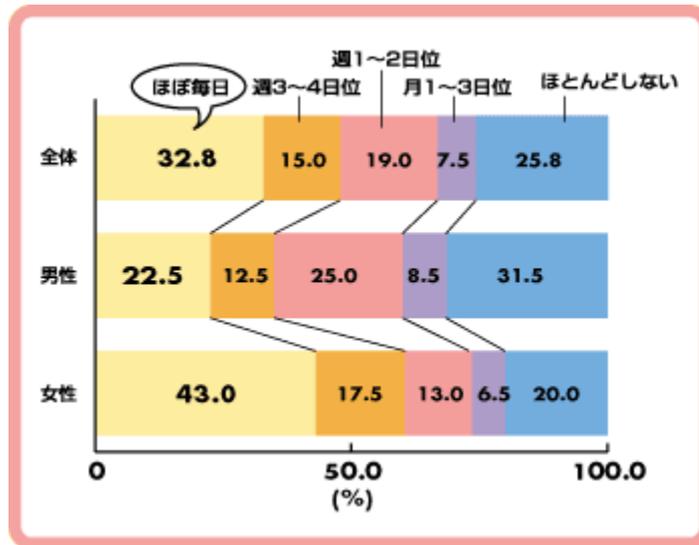
調査結果の解説

5. 間食・食後のデザートの摂食状況と人気ランキング

間食は、3人に1人が「ほぼ毎日」 アイスクリームは、第2位にランクイン

間食は、3人に1人が「ほぼ毎日(32.8%)」と高頻度で摂食しています。性差では女性の方が高く、4割強が「ほぼ毎日」間食すると答えています。

■間食頻度



種類: 1位は男性層に人気の高かった「せんべい・おかき」が獲得。上位4位はいずれも4割強で拮抗するなか「アイスクリーム」は大健闘で第2位にランクインしています。

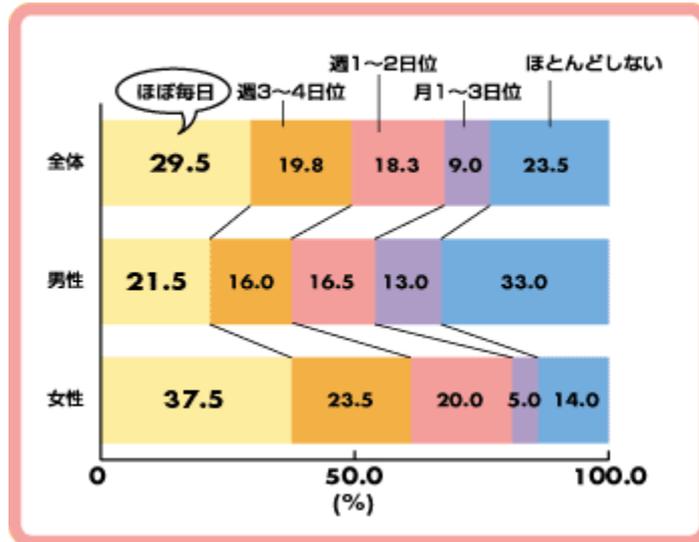
■間食(おやつ)人気ランキング

順位	全体	人気もの	男性	女性
1位	48.5%	せんべい・おかき	50.4%	46.9%
2位	45.5%	アイスクリーム	48.9%	42.5%
3位	44.4%	和菓子	38.0%	50.0%
4位	42.8%	果物	35.8%	48.8%
5位	22.6%	スナック菓子	24.8%	20.8%
6位	21.5%	チョコレート	21.9%	21.3%
7位	21.5%	ケーキ・デザート菓子	17.5%	25.0%
8位	20.9%	ヨーグルト	15.3%	25.6%
9位	3.4%	その他	4.4%	2.5%

食後のデザートは、約3割が「ほぼ毎日」「果実」が圧倒的人気、「アイス」は第2位

食後のデザートは、約3割が「ほぼ毎日」という結果。性別でみると「週3回以上」摂食が、「男性＝37.5%<女性＝61%」と女性の方が非常に高い比率になっています。

■食後のデザート頻度



また、間食および食後のデザート習慣において、「ほぼ毎日派」が最も多いものの、これに次ぐのは「ほとんど間食しない派」と二極化傾向が伺えました。

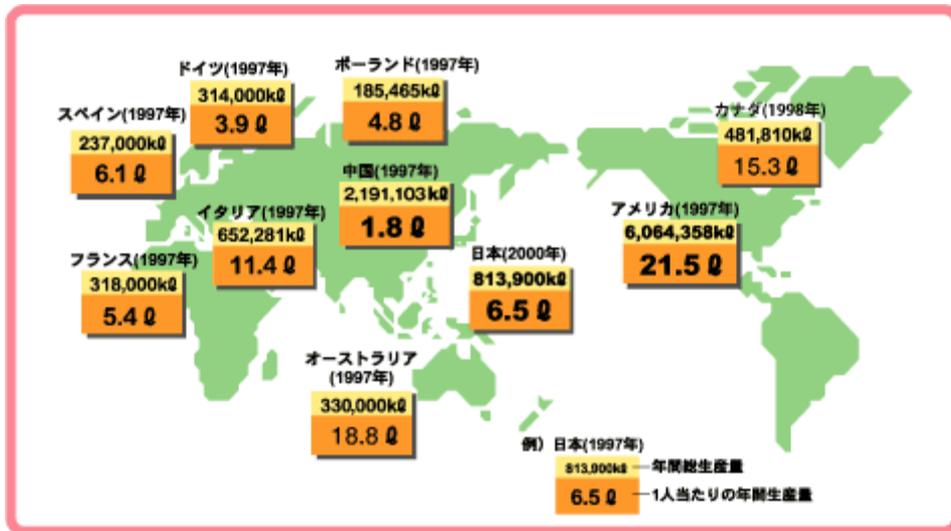
種類: 食後のデザートでは、「果実」が他を圧倒して8割近くの高い支持率を獲得。2位につけた「アイスクリーム(43.1%)」との差は大きく開いています。今後アイスクリームを積極的に食後のデザートとして採用してもらうためのアピールが課題となりそうです。

■間食(おやつ)人気ランキング

順位	全体	人気もの	男性	女性
1位	79.4%	果物	76.9%	81.4%
2位	43.1%	アイスクリーム	48.5%	39.0%
3位	24.2%	ヨーグルト	23.9%	24.4%
4位	17.0%	和菓子	17.2%	16.9%
5位	13.7%	ケーキ・デザート菓子	14.2%	13.4%
6位	3.3%	その他	3.7%	2.9%

参考資料—アイスクリームデータ編 世界各国のアイスクリーム生産量

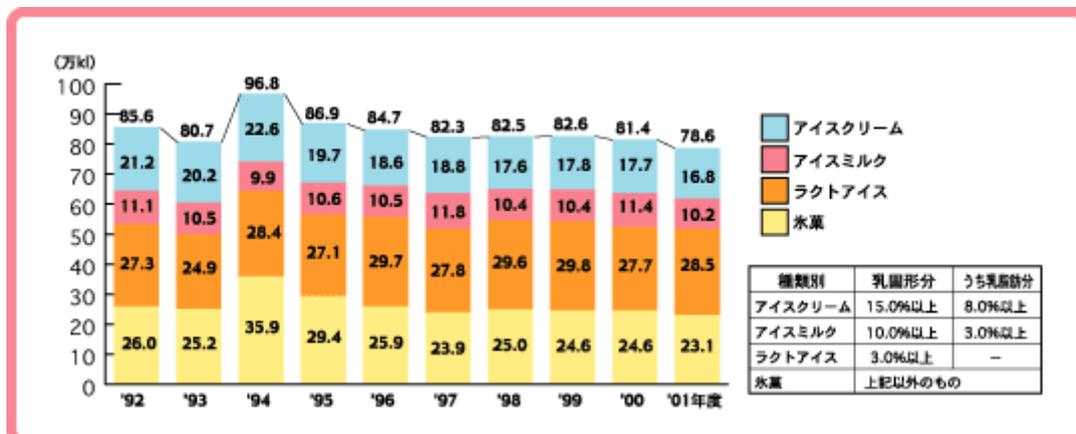
■世界各国のアイスクリーム類の年間生産量・1人当たりの生産量



(IICA国際アイスクリーム協会)

	国名	年度	年間生産 (kl)	1人あたり生産 (l)
1	アメリカ	2000	6,064,358	21.5
2	中国	1997	2,191,103	1.8
3	日本	2000	913,900	6.5
4	イタリア	1997	625,281	11.4
5	カナダ	1998	481,810	17.8
6	オーストラリア	1997	330,000	6.6
7	フランス	1997	318,000	5.4
8	ドイツ	1997	314,000	3.9
9	スペイン	1997	237,000	6.1
10	ポーランド	1997	185,465	4.8

■日本のアイスクリーム類・氷菓の販売量推移



(社団法人 日本アイスクリーム協会調べ)